

国際開発研究部会 2025年度 第1回 研究報告会 報告書

国際開発研究部会 2025年度第1回研究報告会を下記のとおり開催しました。

記

1 部会目的

国際開発課題を経済開発と社会開発の両面から捉えて、ミレニアム開発目標(MDGs)や持続可能な開発目標(SDGs)を含む国際開発枠組み及び人間の安全保障・人権・社会開発のような開発理念をアプローチし、そして貿易と開発、技術移転・技術開発の促進、産業集積と地域経済発展、貿易障壁の削減の諸課題を経済学的な視点から理論・実証・政策の側面から研究する。

2 開催日時・開催会場

- ・ 2025年（令和7年）7月5日（土） 15時00分～17時15分
- ・ 日本大学通信教育部1号館81講堂（対面）とZOOM（オンライン開催）一同時開催ー

3 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕（敬称略）

（1）開会挨拶：陸 亦群 国際開発研究部会長・日本大学経済学部教授



今年度から研究報告の質の向上のため、発表の後にコメンテーターを設置し、発表者との質疑を終えたのちに参加者との質疑を行うという取り組みを始めます。この形式は学会のスタンダードというようにご理解いただければと思います。そして、コメントにつきましては、批判ではなく、あくまでも、研究のための一つのアドバイスとして、受け止めていただきたいと思います。研究の質向上のため、皆様方には良いアドバイスをしていただけることを期待しています。

また発表者においては、質問に関しては、全部答えられれば本当にありがたいのですが、もしその場で答えられなければ、持ち帰って今後の研究に役立ててもらいたいと思います。

今後、この部会はこのような形で開催します。皆様にもある程度慣れていただけたらと思います。

(2) 研究報告会〔各報告25分、コメント5分、質疑応答30分〕（敬称略）

司会： 日本大学通信教育部教授 前野 高章

第1報告（15：05～16：05） 【オンライン参加】

報告者：筒井 洋行 日本大学大学院総合社会情報研究科後期課程

テーマ「インフラ輸出の経済的・制度的・戦略的意義

：GVCガバナンスの視点からのサーベイ研究」

コメンテーター：日本大学通信教育部長・同大学経済学部教授 陸 亦群



要旨

グローバル経済におけるインフラ輸出は単なる外需獲得にとどまらず、制度的影響力と経済安全保障を伴う国際経済戦略として各国の外交・通商政策における重要な柱の一つとなっている。

本研究は、既存のインフラ輸出に関連する学術・政策文献の考察を通じ、GVC ガバナンス理論をもとに、国家戦略・制度設計・企業行動の三層構造の視点から、経済効率・制度適合・戦略影響という多元的政策目標の同時達成の可能性を考察した。

第2報告（16：10～17：10） 【対面参加】

報告者：安 岩 日本大学大学院総合社会情報研究科後期課程

テーマ「農民工の市民化と中国社会の持続可能な発展

— 格差の是正を通じた共生社会の構築に向けて —

コメンテーター：日本大学通信教育部教授 前野 高章

要旨



本研究は、中国における「農民工の市民化」と都市・農村の融合を通じて、深刻化する社会的格差の是正と持続可能な社会の構築を目指すものである。2023年時点、中国の常住人口に基づく都市化率は66.16%に達する一方で、戸籍人口ではわずか48.3%にとどまっている。これは約2億5千万人の農民工が都市に居住しながらも、都市住民としての基本的権利を保障されていない「半都市化」状態にあることを意味する。

本研究では、所得・教育・医療・社会保障などの格差の実態を明らかにし、農民工の市民化を通じた社会的包摂の重要性と、都市と農村の経済・人的資源の統合による双方向的な発展可能性に着目する。これにより、社会的安定と経済的活力を両立させる共生型社会の実現に資する道を探った。

（3）日本大学大学通信教育部教授 前野 高章



私が昔、指導教授からよく聞かされた話として、「実証できない理論は理論ではない。そして、理論のない実証は実証ではない」というのを思い出しました。今日のお二人の報告をお聞きしたところ、実証を目指してデータを集めていくというのが大変ではないかな、と思いました。ただ、そこがまた研究のいいところで楽しいところでもありますので、今後もぜひ研究を続けていただければと思います。

また、今回からコメンテーター役という一つワンクッションを置くことによって討論に少し厚みを増したのかなと思います。会員の皆様には、今後コメンテーターを依頼させていただくことがあるかと思いますが、その時はご協力のほどよろしくお願いいたします。

4 参加者

26名（会場10名、ZOOM16名）

